

(研)

< 参 考 文 献 >

1. 殖方一喜, 佐々学, 鈴木猛 (1956)
フスとその駆除 162 PP. DDT協会, 東京
2. 大瀬寛光, 福島俊定, 前田嘉右エ門, 福晏, 多田哲夫, 小原肇 (1957)
福井県のフスについて (2) 衛生動物, 8 (2): 94

福 井 県 の 淡 水 魚

主として武生附近の魚相

武生高校 五十嵐 清

本県の淡水魚相を明らかにしたいと思いやりかけたが、今回は主として武生附近の淡水魚相について中間報告としたい。採集魚の同定及御指導を承った愛知学院大小林久雄先生並びに東京大富山一郎先生に深く感謝したい。

本県は比較的に水系に恵まれている。傾北に九頭竜川の大水系と北潟湖をもち、傾南に三方湖と北川、南川等の水系がある。而も河の水系と水量が豊富でそこに棲息する魚族もかなり豊富であると推察される。

降海魚を除いては淡水魚は比較的移動性少く、従って地方型的特色を帯びたものが多く興味ある問題が幾つかあるように思える。

別表のように武生市を中心として採集調査しえた淡水魚の種類は10科31種に及び、その分布もかなり広範囲と思われる。記載の順序に従って特に興味あるやに思われるもの注目すべき種類について私見を加えたい。

円口類の1種であるカワヤツメが五分市附近に棲息していることを知った。同地点のトミヨの生態調査の際多数捕獲されたものである。背鰭の形状に相当の変異があり、地方的特性がうかがえる。

日野川上流及足羽川の上流地点(溪流)ではアメマスが棲息している。我国では北は本州北部より島根県に到る間が日本海沿岸の分布となっているが、かなり広範囲に棲息しているようである。体側斑紋よりすると、陸封型幼魚型のようなものである。俗にイワナとして広く知られているのは、本種を指していると思われるが、イワナは太平洋方面の河川の上流に棲息し、日本海沿岸ではその記録がないとの報告(青柳)がある。イワナとアメマスの形態上の相違は容易に判明し難く、今後吟味調査したい。

アメマスと同様河川の上流(溪流)に棲息するものにアマゴ及ヤマメがある。アマゴはビワマスの幼魚型であり、ヤマメはマスの陸封産生型と云える。何れも溪流の細流を好み

棲息しているようである。宅良川でえたとのには体側斑紋に著しい変異を示している興味がある。

コイ科に属する魚類は最も多く、その個体数及分布範囲も広い。その中、俗にチャナヒ云っている稚魚であるが、この種類にヤリタナゴ、タナゴ、タビラ、アブラボテの4種がいる。ヤリタナゴはその分布も一般的で武生市の近郊では到るところに見られる。吻長と同じ長さの口鬚をもち体側に不鮮明な黒色の細線がある。早はサツマカイの鰾腔内に産卵すると云われている。タビラ、タナゴ、アブラボテはヤリタナゴに比べ分布も局部的であるように思われる。白山村でえたアブラボテは大型で而も尾鰭の部分に半月形の白斑が鮮明に浮んでいるのは全く地方型的特色をとったものとして注目してよい。

体側斑紋の特異なものにヒカイがある。鞍谷川にのみ棲息している局部的傾向をもつように思える。山陰、北陸一帯のヒカイの棲息はビワ湖より嘗って移入繁殖したものであるとの報告があるが、そのように確かに思える点がある。コイ科の魚類の中で比較的河川の上流に棲息するものにアブラバヤがある。武生附近のアブラバヤは縦走斑紋の鮮明な縦走型(Sauvage型)で不鮮明なものはノ種とない。

コイ科の降海魚と云えばウグイをあげる。マルタと称する大型の降海魚と陸封型のキタノウグイとがあるが、その区別は到って困難で充分研究調査する必要がある。ウグイは日野川中流、殊に武生附近に産卵場をもち、生殖時期は壮観とも云える。

日野川の支流又は細流にウグイと同じ位に多く棲息しているものにカワムツとオイカワがいる。今の婚姻色強烈で追星の顕著な点で特に目立った魚であるが、カワムツは体側に太い縦走する黒色斑紋があるが、オイカワでは破線の横斑紋を残つかもっている。今では何れもどの魚よりも臀鰭が長大である。カワムツの分布は日本海沿岸では九頭竜川水域が北限との報告があるが、分布上重要な魚類と云える。日野川にウキガモクツナ(ニゴイ)の棲息することは今迄太平洋沿岸河川のみと記載されていただけにこれと分布上注目すべきと思われる。

ドジョウの種類では相当幾種類かを期待したのであるが、3種類(ドジョウ、シマドジョウ、アジメドジョウ)にすぎなかった。その中でとくに分布の知られていないアジメドジョウが武生(池ノ上)近郊に棲息していることは驚異的と云える。武生の近郊(五分市)にトミヨの棲息地のあることを発見出来たことはアジメドジョウと同様、特記すべきことである。

鱗板の配列は Trochurus 型で而も背棘数が 9~11 で北方型の特色をもっていることは興味深い。

日野川に於けるカジカ及ヨシノボリの棲息であるが、住み分け的棲息分布がうかがえるが今後旦急に調査したい。

ハセ科の魚類として4種をあげるが中でもヒリリンコは日本海沿岸の河川に特に多いと云われるが、武生附近の細流、用水池等でよく見かける。その他、ハス、カマルチ、イト

(研)

ヨ、アベハゼ、マハゼ、カマギリ等の採集については今後研究したい。

なお日野川本流の調査は充分でなく、周廻再調査したい。

福井県の淡水魚類 (主として武生附近の淡水魚類)

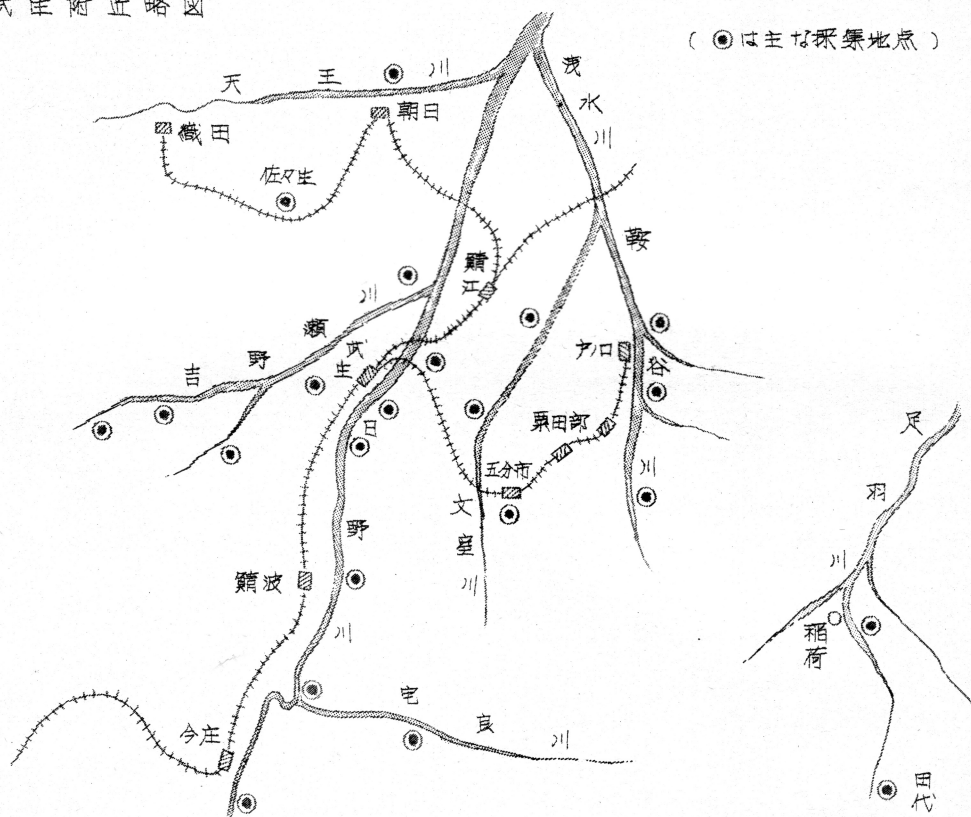
— 1957.12.14 —

和 名	学 名	採 集 地
○ ヤシメウナギ科	Petromyzontidae	
カワヤツメ	Entosphenus japonicus (Martens)	武生五分市 (1957)
○ サケ科	Salmomidae	
アマゴ (ヒマス)	Oncorhynchus rhodurus Jordan et Mag-regor	今 庄 (1954)
ヤマメ (マス)	Oncorhynchus masou Bervoart	宇津尾 (1955) 池田 (1956)
イワナ	Salvelinus pluvius Hilgendorf	今 庄 (1954)
アマス	Salvelinus leucomaenis pallas	
○ アユ科	Plecoglossidae	
アユ	Plecoglossus altivelis Temmick et Schl-egel	武生 (1955) 鯖江・今庄 (1957)
○ メダカ科	Cyprinodontidae	
メダカ	Aplocheilus latipes Temmick et Schlegel	武生 (1957)
○ ナマス科	Siluridae	
ナマス	Parasilurus asotus Linnaeus	今庄 (1955) 武生 (1956)
アカザ	Liobogrus reini Hilgendorf	武生 (1957)
○ コイ科	Cyprinidae	
フナ	Carassius auratus Linnaeus	武生 (1957)
コイ	Cyprinus Carpis Linnaeus	武生 (1957)
ヤリタナゴ	Acheilognathus lanceolata Temminck et Schlegel	武生 (1951) 鯖江 (1955) 池田 (1956)
タナゴ	Acheilognathus lanceolata moriokae Jordan et Thompson	鯖江 (1955)
アブラボテ	Acheilognathus lanceolata limbata Temminck et schlegel	白山 (1955) 岡本 (1955) 今立 (1957)
タビラ	Acheilognathus tabira Jordan et Thompson	武生 (1948) (1956)

和 名	学 名	採 集 地
ヒ カ イ	<i>Sarcochelichthys variegatus</i> Temminck et Schlegel	武生 (1948)
アブラバヤ	<i>Phoxinus steindochneri</i> Sauvage	大野 (1949) 今庄 (1956) 武生 (1955)
ウ グ イ	<i>Tribolodon hokuensis</i> Gunther	武生 (1956) 池田 (1956)
カ マ ツ カ	<i>Pseudogobis esocinus</i> Temminck et Schlegel	武生 (1955) 白山 (1955) 池田 (1956)
オ イ カ ワ	<i>Zacco platypus</i> Temminck et Schlegel	武生 (1949) 栗田部 (1952) 竹田 (1955)
カ ワ ム ツ	<i>Zacco temminchi</i> Temminck et Schlegel	鯖江 (1951) 武生 (1956)
ウ キ カ モ (ツナガニゴイ)	<i>Hemibarbus longirostris</i> Regan	武生 (1957)
。 ド ジ ヨ ウ 科	Cobitidae	
ド ジ ヨ ウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i> Cantor	武生 (1955) 白山 (1955) 今庄 (194) 池田 (1955)
シマドジヨウ	<i>Cobitis biwae</i> Jordan et Snyder	武生 (1955) 白山 (1955)
アジメドジヨウ	<i>Cobitis delicata</i> Niwa	武生 (1955) 穴馬
。 ト ケ ウ オ 科	Gosterosteidae	
ト ミ ヨ	<i>Pungitius pungitius</i> Linnaeus	武生 (1956) 鯖江 (1948)
。 カ ジ カ 科	Cattidae	
カ ジ カ	<i>Cottus pollux</i> Gunther	武生 (1957) 池田 (1956)
。 ハ セ 科	Gobiidae	
ド ン コ	<i>Mogurnda obscura</i> Temminck et Schlegel	武生 (1955) 白山 (1955) 北郷 (1956)
ヨ シ ノ ボ リ	<i>Gobius similis</i> Gill	武生 (1957) 朝日 (1955)
ビ リ ン コ	<i>Chaenogobius annularis</i> Gill	武生 (1955) (1957)
ウ キ ゴ リ	<i>Chaenogobius annularis urotoenia</i> Hilgendorf	武生 (1955) 白山 (1955) 北郷 (1956)

(研)

武生附近略図



福井県内羊歯に関する二三の知見

Some Notes of Ferns in FUKUI-prefecture .

福井県立嶺島高校

蟹本 信雄

最近1954、12福井県博物同好会誌NO.2 (P34~45)に掲載しました越前東部羊歯目録を補充すると共に広く県内全般について羊歯の分布、又新採集品を追加し、併せて今後あるだろうと思われる数種について述べてみたいと思います。

県内分布の状況及びその要因については、既に述べておりますので一省略しますが、北方系のもの、南方系のもの、夫々混然と分布し、載に興味ある分布相を呈して居ります。嶺南地方は未だ採集回数少く、列属分布について又々出ません、暖系のものが相当入り